

論文審査の結果の要旨

報告番号	<p>甲 保 第 4 2 号 乙 保</p>	氏 名	栗本 佐知子
審査委員	<p>主 査 岩佐 幸恵 副 査 谷岡 哲也 副 査 森 健治</p>		

題 目

Operating-room nurses' classifications in job satisfaction  
(手術室看護師の職務満足に関わる類型化)

著 者

Sachiko Kurimoto, Takako Minagawa, Ayako Tamura:2020年2月発行 The Journal of Medical Investigation Vol.67, No.1, 2に掲載

要 旨

手術室で働く看護師は、器械出しという病院内の集合教育では扱うことができない特殊な経験を基にした業務がある。この業務の技術習得は困難な割に患者ケアへの還元が少なく、職務満足は病棟看護師と比べ低い傾向にある。本研究の目的は、手術室に勤務する看護師の職務満足や職場の環境、体験や感情の違いに着目し、各集団を類型化しその特徴を明らかにすることである。調査は、基本属性と独自に作成した質問38項目をリッカート法で行い、1177名から回答を得た。分析は、Ward法による階層的クラスタ分析手法を用い分類し、I～V群に分類した。5群間の有意の差を認めた項目は、基本属性の年齢、看護経験年数、手術室経験年数、年間手術件数で、質問紙の項目においては26項目に有意の差を認めた。I群は卒業後すぐに手術室に配属され〈職務満足が高く承認されることを誇る型〉、II群は年齢が比較的若く看護経験年数が短い〈職務満足はやや高いが医師や同僚に対する感情最悪型〉、III群は年間手術件数が少なく〈職務満足中等度で職場環境適応型〉、IV群は看護経験年数が長く手術室経験年数が短い〈職務満足やや低く看護のベテランの業務不満足型〉、V群は年齢が高く手術室経験年数が長い〈職務満足最低で手術室でのベテランで業務不満足型〉であった。前述した5群の特徴を踏まえた支援が、手術室に配属された看護師の職務満足を満たす支援となる可能性が示唆された。

以上の内容は、今後の手術室看護師の職務満足に即した現任教育および職場管理に基礎的資料を提供することが期待でき、その社会的意義は大きく博士の学位授与に値すると判定した。